

# 辰井川に沿って太古の生活が息づいている地域

柳島治水緑地  
多目的スポーツ広場



柳島一の橋

柳島二の橋

草加南高校

谷塚中

親水階段

辰井橋

県道川口草加線  
栄橋

谷塚  
治水緑地

大沼橋

旧ふるさと歩道案内板  
親水階段

丸野橋

親水階段

蜻蛉橋

仲町新橋

水川橋

親水階段

蜻蛉遺跡

水川神社

常福寺

上田境橋

辰井樋門

毛長川

① 柳島一の橋(やなぎしまいちのし) 草加市内を流れる辰井川の、最も上流に架けられている橋です。歩道と車道の間に花壇があります。辰井川は、さらに川口の新郷緑地へと続いています。

② 柳島二の橋(やなぎしまにのし) 明治20年の『地誌材料稿』によれば、この地域はむかし沼地で柳が数千本も茂っていたため、遠くから見ると島のように見えたことから、柳島と呼ばれるようになったと伝えられています。この橋と辰井橋の間で、辰井川は草加南高校の地下を流れています。

③ 辰井橋(たづいし) 県道川口草加線と辰井川の交差する所に架かっている橋です。高欄には、谷塚地区で主に栽培される市の花でもある夏菊のすかし模様をあしらわれています。

④ 栄橋(さかえし) レンガの敷きつめられた橋の上か、大きな広場となっている、歩行者専用橋です。

⑤ 大沼橋(おほぬまし) この地域は毛長川流域の低湿地のため、大沼(おほぬま)と呼ばれていました。この橋の下流のポケットパークには、旧ふるさと歩道事業のコース案内板が設置されています。

⑥ 丸野橋(まんのし) 文政13年(1830)に完成した『新編武蔵風土記稿』によれば、この地域はかつて丸野(まんの)耕地と呼ばれていました。この橋は、人造石を用い、親柱や中柱に彫刻の展示もできるようになっています。

⑦ 蜻蛉橋(とんぼし) この地域は古くからトンボ耕地と呼ばれていました。辰井川開削工事の際発掘された遺跡は、この地名をとって蜻蛉遺跡と名付けられています。親柱と高欄にお曾を使い、自然の手触りをいかした橋です。

⑧ 仲町新橋(なうちょうしんし) 谷塚仲町はかつては中谷塚村と呼ばれていました。この橋は、谷塚仲町に初めて架けられた橋で、人造石を素材としたシンプルなデザインとなっています。



⑨ 水川橋(みづがわし) この橋の周辺には、常福寺や水川神社があるので、その雰囲気に合わせて擬宝珠(きぼしゅ)を付けた朱塗りの高欄になっています。



蜻蛉遺跡発掘の様子(1984年)

⑩ 上田境橋(かみのうさざし) 谷塚上町と谷塚仲町の境を示す橋です。橋の中央のバルコニーには照明灯があります。この橋の下流で、辰井川は毛長川に注ぎ込んでいます。